

3. 生態系ごとの行動計画

(1) まちの行動計画

1) 家庭の庭やベランダなどで取り組める身近な活動の普及啓発

生物多様性の保全と持続可能な利用を進めるには、一人ひとりが生物多様性の重要性を理解し、身近な場所である家庭の庭やベランダなどで、意識し実践することが大切です。そのため、特定外来生物に指定されている植物を使わないことや、人・野鳥・昆虫などが共生できる植栽や園芸の方法などの普及啓発に努めます。



◎ 緑のカーテンによるまちなかでの緑化

2) 大学や企業の敷地、社寺林などにおける生物多様性の保全・向上

市内には、まとまった緑地を有する大学や企業が複数存在し、市街地における貴重な自然環境となっています。また、市内に点在する社寺林は、優れた自然環境に加えて、歴史的・景観的な側面からも重要な役割を担っています。そのため、大学などが緑地の整備などを行う際には、必要に応じて生物多様性推進部会が助言を行い、効果的な生物多様性の保全・向上につなげます。



◎ 岡田山（神戸女学院大学）

3) 市民参画による生物多様性に配慮した公園・緑地づくり

都市部の河川や道路沿いの公園や緑地などは、周辺住民の憩いの場としてだけでなく、山、川、海などの生態系を連続した空間としてつなげる重要な役割を担っています。それら公園などのうち、生態系ネットワークを維持・形成する上で、特に重要となる自然豊かな公園を選定し、市民の参画と協働により、生物多様性の保全と向上を図ります。



◎ 広田山公園

4) 学校園・保育所におけるビオトープの活用

ビオトープは、保育所や小学校などを中心に設置が進められており、市街地における貴重な水辺の生態系を確保するという役割を担っています。また、子供たちにとっては身近に自然や生き物とふれあい、学ぶことができる場所となっています。そのた

め、ビオトープ通信の発行などモデル的な取り組みを行っている保育所などの情報発信を行うとともに、未設置の学校園などについては生物多様性に配慮した整備を進めていきます。



◎ 高木北小学校にあるビオトープ



◎ ビオトープをのぞき込む子供たち

コラム

【西宮の生物多様性のために】 こんなことをやってみましょう!

- 住んでいる地域について、改めて考えてみると、意外と知らないことってありませんか？ 西宮コミュニティ協会が発行する地域情報誌『宮っ子』は、地域に密着した様々な話題が掲載されています。まずは、この『宮っ子』で情報収集を行って、関心のある地域の取り組みに参加してみましょう。

